

## OnAir 1500 ユーザーレポート

北海道放送株式会社 様

OnAir 1500 - 12

**HBC** 北海道放送

ラジオ第1スタジオをOnAir 1500で更新



北海道放送株式会社  
技術局 制作技術部  
田崎 隆一

### HBCラジオ第1スタジオ

北海道放送(HBC)のラジオ第1スタジオは、25坪ほどの広さがある大スタジオと4人までの出演者に対応可能なアナブースを持ち、録音スタジオとして運用しています。これまでは24chアナログコンソールを使用してきましたが、導入以来23年が経過し、今回STUDER OnAir1500に更新する運びとなりました。

### OnAir 1500選定にあたって

使用頻度の面から、大スタジオでの録音は中継用コンソールを持ち込むことで対応することとし、アナブースを使用した録音に特化することでコンパクトな構成を想定しました。



STUDER OnAir 1500は入出力数の条件に必要十分であり、音質はもちろん、EIA4Uサイズに集約されたコンパクトなコア、そして最も重要な費用面での条件をも満たすものでした。

当社では生放送を行っている第2スタジオ・第3スタジオでSTUDER OnAir 2000を導入しています。これまで非常に安定して動作しており、OnAir 1500でも高い信頼性が見込まれます。また、主にオペレートするのは技術担当ではないディレクターなので、操作性の面からシンプルで慣れ親しんだSTUDERのインターフェイスはOnAir 1500でも抵抗なく受け入れられそうな点や、コアに全ての入出力が集約され、しかもコネクタがXLRであるので設置工事費用の低減が見込めることも選定理由となりました。

### 導入して

導入して10か月が過ぎましたが、これまでのところトラブルフリーです。フェーダー上のチャンネルディスプレイは高精細度であるが故、文字が小さく、目が遠くなってきた身には若干厳しいなどの点はありますが、操作面ではスナップショットのリコールが容易で、誤って設定を変更しても絞ってあるフェーダーのみのリコールが可能な点も利点です。

更新費用の面からフェーダー埋め込みのテーブル加工は行わず、フェーダーはテーブルにそのまま置く形になりましたが、薄くてスタイリッシュなフェーダーは、作業スペースのアレンジが容易な利点もあり、実際に操作するディレクターからは好評を得ています。

最後になりましたがスチューダー・ジャパンブロードキャスト様には導入の際、カフボックスのカスタマイズや初期設定など多大にご尽力いただき厚く感謝申し上げます。

